

(様式 13)

氏名(本籍) 高島 恵子 (東京都)  
学位の種類 博士(歯学)  
学位記番号 甲 第385号  
学位授与日 2021年3月15日  
学位授与の要件 博士の学位論文提出者(学位規程第11条第1項該当者)  
学位論文題目 Conditioned pain modulation (CPM) と pain catastrophizing scale (PCS) は顎変形症術後痛を予測する

論文審査委員 (主査) 教授 小長谷 光  
(副査) 教授 長谷川 彰彦  
(副査) 教授 坂下 英明  
(副査) 教授 村本 和世

### 論文内容の要旨

顎変形症手術予定患者を対象に手術前に conditioned pain modulation (CPM) と pain catastrophizing scale (PCS) 評価を行い術後痛との関連を検討した。

CPM 効果の測定は、冷温交互刺激を反利き手側の前腕に条件刺激として与え、利き手前腕で圧痛覚閾値を測定し算出した。PCS は合計点だけでなく、反芻、無力感、拡大視の下位項目についても個別に点数を算出し評価した。術後鎮痛薬内服期間 (analgesic period: AP) を記録した。AP と CPM, PCS との相関を Pearson 係数をもちいて検討した。さらに AP を目的変数、CPM 効果、PCS-合計、PCS-下位項目を説明変数とした重回帰分析を行った。

対象患者 43 名の CPM 効果は 13.1%であった。AP と CPM 効果、AP と PCS-拡大視に負の相関を認めた。重回帰分析の結果以下の式が求められた。AP = (-0.04×CPM 効果) + (0.31×PCS-拡大視) + 6.89 ( $R^2 = 0.23$ , CPM 効果;  $p = 0.04$ , PCS-拡大視;  $p = 0.01$ )。

顎変形症術後の術後痛は、CPM 効果および PCS-拡大視によって予測できることが示唆された。

### 論文審査および試験結果の要旨

本論文は術前の患者の CPM 測定と PCS 測定により、術後疼痛の動向を予測することが明らかとなった。本大学院歯学研究科高度口腔臨床科学コース専攻、高島恵子に対する最終試験は 2020 年 2 月 3 日小長谷光教授、坂下英明教授、長谷川彰彦教授、村本和世教授により主論文の内容に関して、種々の事項について口頭試問を実施し合格と判定した。また高島恵子の語学試験は大学院入学時の語学筆記試験の結果をもって合格とした。よって申請者、高島恵子は博士(歯学)の学位を授与されるに値するものと判断した。